

第1号議案—1

品質保証研究会 平成30年度活動報告

1. 活動状況

(1) 平成30年度の活動は、第28回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	総会	通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	特別講演会	1回
3			講演会	1回
4			見学会	1回
4	定例研究会活動	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	QASGニュースの発行 第94号～第96号	3回
5			グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ
			第2グループ	4回
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援	幹事会の開催 第178回～第182回	5回

(2) 平成30年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

2. 活動要約

平成30年度の活動要約を表2に示す。

表2 平成30年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	総会	通常総会 第28回	平成30年6月13日(水) 学士会館 2階210号室	48名 (他、委任状32名)	(1) 議案審議 ①平成29年度活動報告・決算案の承認 ②平成30年度活動計画・予算案の承認 (2) 定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演会	特別講演	平成30年6月13日(水) 学士会館 2階210号室	75名	「医療分野における安全文化の測定と醸成～チームトレーニングがなぜ必要か～」 国立保健医療科学院上席主任研究官 種田憲一郎氏
		第46回講演会	平成31年2月18日(月) TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター(2F)202室	32名	「人間工学関連の最近の世界の状況」 IEA (国際人間工学連合) 前会長 藤田祐志氏
3	見学会	第44回見学会	平成30年11月9日(金) (株) 日本製鋼所室蘭製作所	14名	施設/設備見学、品質保証および品質作り込みに対する意見交換など
4	QASG ニュースの発行		(1) 第94号 平成30年9月 (2) 第95号 平成31年3月 (3) 第96号 平成31年5月		① 第28回通常総会報告 ② 第1・2グループ活動計画および活動報告 ③ 平成30年度役員紹介 ④ 第44回見学会記 ⑤ 第46回講演会報告、他
5	定例研究会	第1グループ (リーダー: 工藤竜太 会員)	<p>【研究テーマ】 『研究テーマ: 品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 - 原子力セクタ規格の調査・検討」』</p> <p>【研究の内容】 昨年度までに検討を進めて来た結果で原子力QMSの骨格が出来上がったものと考えているが、今年度は、業界全体で構成する「大きなQMS」を原子力セクタ規格としてより先進で、且つより実効的なものとするべく、特徴的な事項について更に検討を進めた。</p> <p>1) 製造者不正問題</p> <p>① 事例の確認 当該企業の発行する不正問題に関する報告書や識者などによる公開されている考察記事により事象の理解を深めた。</p> <p>② 教訓(原子力QMSへのインプット)の検討 各社事例より、組織自ら不正を起こさないようにするために、また供給者で不正を起こさせないようにするために、原子力QMSへのインプットとなるような教訓について議論・検討を行った。</p> <p>2) 一般産業向け工業品の適用についての検討 品質保証技術基準追加21項目に含まれる一般作業向け工業品の適用については、米国ほど厳密な運用は要求されないとされている。ある仮定の下にどの程度の活動になるのか検討を行った。</p> <p>3) インセンティブの検討 各組織が自主的にQMSを改善するための仕掛けとしてインセンティブが必要と考えているが、これまでの検討を振り返り想定しうるインセンティブのあり方を議論した。</p>		<p>定例研究会</p> <p>平成30年 7月9日 平成30年 10月24日 平成30年 12月17日 平成31年 2月12日 平成31年 4月8日</p>

表 2 平成 30 年度 品質保証研究会 活動要約 (2/2)

番号	項目	内容
5	<p>第 1 グループ (リーダー： 工藤竜太 会員)</p> <p>第 2 グループ (リーダー： 氏田博士 会員)</p> <p>定 例 研 究 会</p>	<p>4) 偽造品・不正品・疑惑品の防止についての検討 航空宇宙業界の QMS 規格 JIS Q 9100:2016 や原子力機器 供給者向け QMS 規格 ISO 19443:2018 における規格固有の 要求事項の確認と内容について議論を行った。</p> <p>【研究テーマ】 『研究テーマ：エラーマネジメントに関する調査研究』 ----- 【研究の内容】 本年度は、MTO 文献調査検討および良好事例分析手法の確立と その適用に注力した活動を実施した。</p> <p>1) MTO 文献調査と内容分析と国内適用の研究 福島事故の知見として、大規模複雑システムにおいては基 本的想定が気づかれない可能性があるため、個々のシステ ムの脆弱性の特定は困難という理解がある。この解決のた めには、Man, Technology, and Organization (MTO) とい う全体を考慮した取り組み (Systemic Approach) が必要で あるという認識が IAEA などを中心に西欧において共有され ている。MTO 関連の文献を収集・調査し、その内容を評価し 各組織への適用性を検討した。</p> <p>2) 成功 (良好) 事例分析手法確立と分析適用 前年度分析した良好事例 (3 事例) また過去に分析した組織 事故分析 (9 事例) さらに最近の事例を加えた改善事例を共 通の分析シートに基づき再度統一的に分析し、横断的な比 較検証から教訓を抽出した。</p> <p>3) 福島事故の他プラントとの比較検討結果の分析 良好事例のみならず失敗事例も取り上げ、また良好事例分 析の範囲を、福島第一と福島第二の事故へ拡張し比較する ことにより新たな知見の抽出を試みた。さらに、東海第二 と女川に対しても同様の分析を試み、4 つのサイト的良好事 例と失敗事例を総合的に比較分析し、リスク対策の在り方 を検討した。また別の視点として、国、福島県、宮城県お よび茨城県の事故対応も比較分析した。さらに、対策とし ての電力が提案している Phased Approach の有効性の 検討を開始した。</p> <p>第 2 回の研究会では、JR 東日本の安全研究所との研究交流会 を実施した。また本年度の研究活動に基づき、その成果を人間 工学会東北支部研究会で 4 件に分け講演した。</p> <p>定例研究会 平成 30 年 10 月 26 日 平成 30 年 12 月 26 日 平成 31 年 2 月 19 日 平成 31 年 4 月 26 日</p>
6	幹事会	<p>上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第 178 回～第 182 回の計 5 回開催)</p>

第1号議案-2-1

品質保証研究会・平成30年度収支計算書
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

収入の部

単位:(円)

貸方科目	計	予算額
会費収入	820,000	900,000
講演会参加費収入	145,000	20,000
見学会参加費収入	0	12,000
その他収入	0	200,000
利息収入	11	0
収入計	965,011	1,132,000

支出の部

借方科目	計
会議費	551,686
印刷費	201,194
諸謝金	50,000
旅費交通費	8,140
通信運搬費	10,890
図書資料費	0
消耗品費	864
雑費	5,292
支出計	828,066
収支差額	136,945
合計	965,011

事業項目別支出内訳	支出額	予算額
総会関係	482,320	700,000
定例研究会	211,652	150,000
講演会 1回	124,940	150,000
見学会 1回	2,160	20,000
ホームページ	6,994	140,000
合計	828,066	1,160,000

本研究会財産状況及び関係証拠書類等を監査した結果、収支計算書の数値は正確であり、本会の財産は適正に管理されていると認めます。

以上

平成31年 4月22 日

監事

渡邊邦道



品質保証研究会・貸借対照表
(平成31年3月31日現在)

単位:(円)

資産の部		
勘定科目	金額	備考
流動資産		
現金	19,930	
銀行口座	1,449,260	
郵便振替口座	331,100	
流動資産合計	1,800,290	
固定資産	0	
固定資産合計	0	
資産合計	1,800,290	
合計	1,800,290	

負債の部		
勘定科目	金額	備考
流動負債		
流動負債合計	0	
負債合計	0	

正味財産の部		
勘定科目	金額	備考
繰越金		
前期繰越金	1,663,345	
当期収支差額	136,945	
繰越金合計	1,800,290	次期繰越金
正味財産合計	1,800,290	
合計	1,800,290	